★神戸の集いから

★モデルが集った
重森守「裸の記者」出版記念会

朝日新聞の神戸支局長重森守氏が、神戸新報社から「裸の記者」を発行。その出版記念会が、七月二十一日兵庫県民会館で開かれた「裸の記者」はノンフィクション。新聞記者のウラ・オモテが描かれているので、モデルとして登場する人々が次々顔を見せて興味深く会場を湧かせた。また、道化座の阿木五郎さん、須永克彦さんによる本文朗読。貞松・浜田バレエ団の〝つるのとぶ日〟のバレーなどが演じられて、社会派らしい集いとなった。

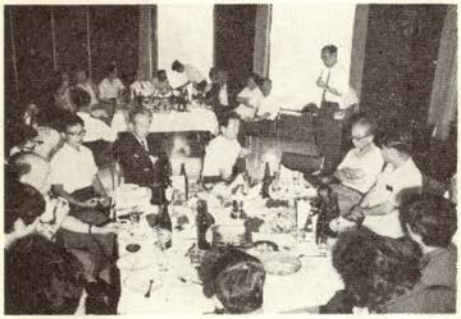
（中央重森氏と河上氏）

★伝統のよかちんで賑わった
近畿地区東京美校芸大同窓会

明治9年、工部美術学校として創立され、その歴史の中で多くの画人を輩出してきた東京美校、東京芸大の近畿地方同窓会が、7月25日、レストラン・バーグにおいて40名の同窓生が集まって開かれた

京都、大阪と持ち廻りで、第三回の今年が神戸で、小磯良平画伯（昭和二年卒）のあいさつで始まった。

大正13年から昭和40年までの卒業生が次々と想い出を語り、明治9年から寮歌として続いた「よかちん」踊りを披露し、先輩後輩が賑やかに交歓した。



Chianti corner
キャンティ・コーナー

■楽しかった
オールドパー祭り

七月二十一日、洋酒の店「キャンティ」は六周年記念を迎えました。はじめての試みの〝オールドパー祭り〟は大変好評で、オールドパー社からの美しいネオンサインがチラチラとカラフルに店内を照らし、一段と楽しい夜となりました。

洋酒の店キャンティ
Chianti
榊　晴夫
神戸・生田区北長狭通二ノ三
TEL ㈹3060

花のある街

もとまちフローラ ジャーナル

〈元町1・2〉

●海の記念日によせて花のゴンドラ、マルコポーロ号船長がテープカット

七月十九日（日）は、海の記念日の前日とあって、ポートターミナルへ入港中のマルコポーロ号（英国観光船）のキャプテンP・P・カールソン船長に元町フローラにご招待。また、明治屋前の道路には、ばらの花をいっぱい飾った美しいゴンドラが三隻移動花壇が造られました。この花のゴンドラの進水式のテープカットをP・P・カールソン船長が、さっそうとはさみを入れて拍手を浴び、新しいパープルと白の制服にピンクの帽子が可愛い元町レディスから、藤娘の日本人形をプレゼント。この後、マルコポーロ号のパーティに元町レディスが招かれて船と町との交歓が行われ、海の記念日にふさわしい行事と人気を呼びました。

マルコポーロ号カールソン船長に人形贈呈

花のゴンドラが進水式です

●オアシスロード・オープン記念にフィリッピン民族舞踊団公演

ニューヨークのオアシスロードに見習って、東京では銀座、新宿などが、神戸

★もちまちフローラショップトピックス

★やんちゃなボウヤたちが喜びそうな綿シャツが〈ファミリア〉のスヌーピーコーナーにあります2才～13才まで各種あってブルー・黄・赤・緑、たくさん・たくさんあって、スヌーピーやチャーリーブラウンがいっぱいです。
八〇〇～一、三〇〇円

★熱湯玉露をインスタントにおいしく入れる事ができます。ティーバック形式でワンセット一〇〇円〈龍焔園〉の入り口にあります。

★お酒のおつまみが沢山置いてある〈三和バナナ〉木の実やバナナの中で一番魅力的なのは五〇円のソフトクリームなのです。元町をショッピングしながら、彼とブラブラ歩きながらペロペロとやって下さい。

★アメリカンスタイルの店〈サンサカエ〉では鳥のしゃう柄のネクタイ・帽子とむちのしゃう柄のっがあります。各々二、〇〇〇円バスケットの中に又ミニバスケットその中にもまだ入ってるんじゃないかと思えるようなルームアクセサリーがありました。洋服以外にもいろいろ楽しめる店ですね。

★〈七宝〉に汽関車のウイスキーボックスを見つけました。グラスも付いています。実用的なルームアクセサリーです。
六、五〇〇円

★舶来雑貨の〈サノヘ〉にまっ赤なエナメルバッグがウインドーに飾ってあります。ロープがついて

では、大丸前・トアロードなどがオアシスロードとして解放されました。

八月二日（日）第一回のオープンを記念して、元町フローラ、大丸、大丸前商店街、トアロード商店街の四者からなる木曜クラブの主催で、万博に出演中の「バヤニハンフィリッピン民族舞踊団」が招かれて元町フローラ、トアロード、大丸前で暑いなかを熱演。美しく楽しい衣裳と踊りで大変な人気。また八月九日（日）は、盆前とあって灘婦人会の奥様方が浴衣姿はなやかに手踊りで行進。オアシスロードの面白さを充分に発揮しました。

バヤニハンフィリッピン舞踊団の合唱風景

灘婦人会メンバーの手踊りが続く元町フローラ

元町レディス・インフォメーション活躍

★元町ミニマンガ　岡田　淳

るので気軽に持てる感じです。店内に入るとステキなバックが手頃な値段で置いてあるのも魅力です。レッドウォールのエナメルバック　二二、〇〇〇円

★〈**北村真珠店**〉では若い人向きの真珠をいろいろと揃えています。かわいい真珠のイヤリングが二、〇〇〇円でありました。真珠を気軽なアクセサリーにする時代です。

★手芸品の店〈**ポンゲー**〉に野に咲く草花の手描きのサイフがあります。

★神戸一のネクタイ専門店〈**元町バザー**〉にうず玉模様の剌しゅうネクタイ（LACO）がウインドーの中で目を引きます。色も黄・グレー・茶系統とお好みのものが選べます。　三、六〇〇円

★いつの時代にも渋い輝きを見せるべっ甲。〈**太田べっ甲店**〉にタイタックが各種あります。　六〇〇～一、八〇〇円

★〈**岡田シルク店**〉にご婚礼用のフランスレースがあります。小さいバラの花模様がきれいです。白とピンクで一着分一三、五〇〇円

★〈**二つ茶屋**〉のご婚礼菓子（巣ごもりの夫婦鶴2羽）八〇〇円～一、五〇〇円です。秋の祝い日にどうぞ。

★紳士服飾店〈**うね**〉にイブ・サンローランのネクタイとスカーフのペア。八、五〇〇円。他にランバンのネクタイ一〇、〇〇〇円・ジェーンロッドのネクタイ六、八〇〇円。どれもこれも粋でソフトで神戸っ子に似合いそうです。

★〈**クロージャーサンサカエ**〉に黒人の着るポンチョがありましたモダンジャズファンの人には魅力のある品物ではないでしょうか。

★旅行カバンの店〈**大上鞄店**〉に変型シガレットケースがありました。ロングサイズの外国たばこを入れて夜のパーティーに出かけましょう。

すてきなお店

＊＊＊＊＊＊＊

★コウベヤ　元町2丁目
㉝2589

★オノ洋装店　元町2丁目
㉝1718

★琥　珀　元町一丁目
㊴4318

元町山側防災ビルの≪コウベヤ≫はヨーロッパ調のインテリヤ明治40年創立の靴専門店の風格をそなえたお店。

フローラタウンとなった今年3月から紳士雑貨から靴専門店としてスタート。イタリー・イギリスの舶来紳士靴をはじめとして、センシャス・ロザリー・リリーの婦人靴・ハッシパピーの子供靴など品数が豊富にそろっている。

中年層のお客さんが多いのも特徴だ。

お酒落の楽しい秋を迎えて、カラフルな色彩がウィンドーを彩る≪オノ洋装店≫は服地・オーダーの専門店として古い歴史を誇っている。「何よりお客様に楽しくお買物していただける店」をモットーに広い明るい店内には、若い女性の心を魅きつけるハイセンスな服地がいっぱい。奥のコーナーには高級舶来服地、一品ものをとりそろえ、ゴージャスでエレガントなファッションを生み出している。

オフホワイトの壁にシャンデリアが美しい。ウィンドウにならべられた豊富なハンドバッグは一見地味だが、その一つ一つにしゃれたムードと深い味わいを持っている「お買い上げのバッグは愛着を持って、安心してお使いいただけるよう十分な品質吟味をしています」とは白賀店長の弁。流行品でない流行品を品揃えして、そのいずれもがすっきりと品のよいデザイン。ビーズバッグがしゃれている。

＊
ショッピングは
楽しいモトマチへ
＊
98頁～100頁は
元町1、2丁目の
企画ページです
＊

☆元町うまい店

春駒

生田区元町一丁目
TEL㉝8610

元町駐車場の向い側角、生け洲の中に、たい・すずきなど大きな魚が悠々と泳いでいる店が、割烹・江戸前にぎりの《春駒》である。一歩店に入るとスタンドに坐って語り合い、お酒をくみかわし、名物車えびの鬼がら焼きをほうばるお客様でなごやか。商社、医者、証券会社のお客様が多いとか。

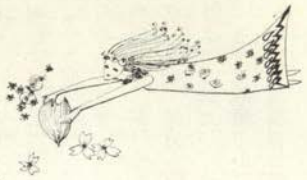
注文によって生け洲からイキのいいやつを引きあげて料理するのだから新鮮な、キュッと身のしまったつくりが食べられる。

お酒の方もさくら正宗・菊正宗白鹿と灘の名酒がそろっている。たる酒をマスで飲ませてくれるのが、お酒の好きな人には結構な話なお、すし定食・つくり定食・天プラ定食《各三五〇円》もありかなりのデラックス料理である。

つくり定食につく、山菜は自然の色味をそのまま生かして盛りつけてあり、板前さんの腕の良さがわかると言うもの。

営業時間
午前11時30分～午後11時

for Happy wedding



Motomachi flora

★

幸福が裾をひいて

忘れられぬ花嫁姿

結婚式の日のドレスは生涯忘れられぬ想い出をつくります。ナイーヴな清潔な美しさを表現したいものです。

舶来服地とお仕立て

炳　昌

元町通２丁目　　ＴＥＬ．33—1928

★

嫁ぎゆく日に

花嫁へのプレゼント

清楚で優雅な輝きを持つ真珠は初々しい花嫁を飾るのにふさわしいもの。永遠に変らぬ幸福を祈ってお贈りください。

世界の人々に愛される北村パール

北村真珠店

元町通２丁目60　　ＴＥＬ．33—0072

恋愛入門 7

小さいタオル

H・ジュニア
え・納 健

われわれは排泄物をもってする以外に恋をなし得ない
——ボードレェル

つのる思いをこめて、彼の男根は彼女の薄い腰の背面まで貫いたかに思えた。「真美(まみ)！」「真治さん！」二十四才で三宮のクラブKのホステス真美のセックスは、彼の妻のとは問題にならぬ程、新鮮で、独立した生き物のごとく大胆に収縮し、絞めつけ、そのリズミカルなけいれんの波は、少しの間をおいて、幾度か押し寄せてはひいていった。彼はそうした彼女の悦楽の頂上を体で感じとりながら、自分も防ぎきれぬ程の圧倒的な快楽の淵をさまよっていたが、その幾度目かに、こらえきれず、充血しきった亀頭の小口から精液を噴出した。「真美！」三十四才の黒崎真治はか細い声で彼女の名を呼びながら果てた。

真美はほとんど彼の理想の女性であった。だから、出来れば、セックス抜きでつきあいたいと最初彼は思っていたのである。しかし実際に付合い始めてみると、二人の間に話す言葉はすぐなくなってしまい、しかも、不思議な力に導かれて、二カ月の恋の冒険と心に決め、七月、八月は出張と、妻を偽って、真美のために借りてやったこの六甲のホテルの一室から大阪の自分の建築事務所まで、車で毎日通うという始末であった。

彼が射精しおえると、彼女はどこに隠し持っていたのか、ホテルのバスルームに備えつけてあるあの小さなブルーのタオルをすばやく取り出した。一体、何をするのかと黒崎は一瞬、好奇心にかられたが、彼女は実にもの慣れた手つきで、タオルをフトンの中につっ込み、下腹部の方へもっていった。突差に彼はうつぶせたまま、彼女から体を浮かせ、彼女のタオルを持った手が自由に二人の下腹部を通過出来るような空間を構成していた。彼女は先づ濡れた彼のセックスをいたわるようにふきとり、それから自分の方をふきとっている風であった。今度は彼女はそのタオルを小さくたたんで、まだ自分の上にひじとひざで体重をささえて腹ばいになっている彼の顔や首の汗をやさしくふき始めた。「あなた情熱家ね！」といいながら汗をふかれるのが照れ臭い気持であった。彼女の愛液と彼の精液がいりまじった独特のねばっこい香気が二人の鼻先をくすぐってよぎった。二人はにっと笑いあった。彼は漸く上半身を起こして彼女の横へ寝た。

しかし、真美は果てることを知らなかった。彼女は再び彼のセックスを手でもて遊び始め、やがてそれは積極的で巧みな前戯へと移行していった。

* * *

八月に入って六甲の山は日一日と秋色が濃くなっていった。しかし彼女の美しい白絹の皮膚は、ますます張りが出て、つややかに、生き生きと美しくなり、ピンク色に染って来た。少し肉付きさえよくなったようである。それにひきかえ、彼の方は、何とあわれな状態であろう。ひざはがくつき始め、食欲は減退し、お腹の具合が悪くなり、時に下痢さえした。顔色もすぐれず、車に乗ると、つわりのように吐き気と戦わねばならなくなった。しかし、彼女のあのますます色っぽくしまってきた

ウェスト、もり上ってきた乳房、しどけなくベッドにうたた寝している時に、チラッと見せつけられる、あの純白のパンティーのくい込んだマシマロのような下肢のつけ根のあたりを想起するだけで、彼の胸は欲望にうづき、心臓は絞めつけられる思いがした。痛む腹を左手でおさえ、右手で六甲ドライブウェイの通行券を受け取り、山頂のホテルへ車を走らせる毎日が続いたのである。彼は想うのであった。この二月近くの間自分は何をしてきたのか。確に恋をしてきたのだ。しかし実際にしていたのは排泄ではなかったか。三十四年間、たくわえ続けてきた財産を一度にはき出すように、自分の精液のありったけを彼女の体内に投入したという印象の方が強烈であった。何よりの証拠に、七月の始め米粒のように濃かった精液が今は水のようになってきているのである。

＊　＊　＊

八月最後の土曜の夜というので、二人は明け方まで愛し合い、翌日は午後日のある中から、また愛し合った。初秋の日差しは心地よかったが彼の体力には限度があった。

彼が果てると、彼女は例によって、あの小さなブルーのタオルで彼と彼女のセックスをやさしくふきとった。しかしそのタオルで彼の額の汗をふかず、そのタオルを自分の顔に近づけ、しげしげと観察し始めたのである。「不思議だわ、あなたいい気持になった？」と彼女は尋ねた。「うん」「ほんと？　何も出てないわ！　全然におわない！」そういって彼女は彼の鼻先に、そのタオルをひろげて見せた。タオルには、彼がすでに慣れ親しんだ彼女のあの部分の香が漂うだけであった。彼はその時、昔読んだ中国の房中術書の極意の一節を想い出した。すかさず、彼は「天子は接してもらさず」と、もったいぶった声色でさもえらそうに断言した。二人はベッドの上で、いつまでも笑いころげた。

CINEMA

夫婦像2題

★

映画評論家
淀川長治

〈53〉

結婚は葡萄のごとく、時期を急ぐとスッパく、時を得ると見事にスィート。

それゆえ結婚は急ぐ勿れ。しかれども用心をしすぎスッパさをこわがれば、ついには私のごとく生涯その甘さを味わうことなく終る。

×

ここに珍らしやソ連がツルゲーネフのクラシック文学「**貴族の巣**」を一九六九年の昨今にいたって映画化したいまどきツルゲーネフと申し給うな。このロシア文学こそは日本の明治文学のタネ本であった。

もちろんのことロシヤ映画はその昔からツルゲーネフ作は何度も映画化し、すでにこの「貴族の巣」も今を去る一九一五年、一度映画化（ウラジミル・カルジン監督）されてはいるが、こんどはツルゲーネフ生誕一五〇年を記念しての大作色彩映画化である。

監督はアンドレ・コンチャロフスキイ。主演はリーザをイリナ・クプチェンコ。ラブレキーをレオニード・クラーギン。バルバラをポーランドのアンジェイ・ワイダ監督夫人のベアタ・トゥイシチピッチが、それぞれ演じている。この監督この俳優は、すべて日本では未知なるも、その作品タッチには、ソ連映画の泥くささが洗われて、さすがモスフィルム作品の品格立ちこめて一見の価値ありである。

貴族ラブレキーは妻に失敗した。パリ在の妻バルバラは夜ごとのパーティーに華麗を楽しみ若い男と火遊びもした。ラブレキーはそのような妻をパリに残し、ひとり故郷にかえり、その心のさびしさが、娘のような若いリーザへの恋に燃えた。リーザにも婚約者がいた。リーザの母はそのこさかしい若い役人が気に入っていたのだがリーザはもともとそんな彼に愛の芽生えもなく、そこへ妻あるラブレキーとの恋が彼女の心のバランスを失わす。そのころパリのラブレキーの妻の客死が伝わり、ここにラブレキーとリーザの結婚がひそかに二人の自覚となったとき、ラブレキーの妻は死んではいなく、パリ生活に疲れて戻ってきた。このためリーザは生きる望みを失い尼となり、妻のバルバラも今は良人の心に自分のはいりこむ余地なきを知り再びパリへ立ってゆく。

話は単純ながら、帝政ロシヤのその貴族生活へのノスタルジィのごときものがこの作品にしのばれてソ連映画もついにかかるロマンの世界にキャメラを持ちこんだことで注目。なしとげ得ぬ恋の悲しみは人間のひとつの業（ごう）でもあろう。

いまひとつは、カルロ・ポンティ製作、ソフィア・ローレン、マルチェロ・マストロヤンニ主演、これに珍らしや「戦争と平和」のソ連女優のリュドミラ・サベリーエワが加わり、監督がピットリオ・デ・シーカ。

「ああ結婚」「昨日・今日・明日」の名作につづくこのスタッフの新作「**ひまわり**」。

ナポリの男と女がひと目惚れの浮気が、やがて本もの

の恋となり、二人は結婚。

ところが第二次大戦で良人は戦場。妻は良人の母と二人暮らし。

〈貴族の巣〉

ついに良人の戦死とも思える長年の無音。妻はあきらめきれない。ところが、ひとづての風の便りで、良人がソ連に生き残っている、その場所はどこそこらしいと知った。

何年も待ちわびた妻は、思いきってソビエトへ。実は良人は……生きていた。ソ連娘に凍死寸前に救われた。しかも今は子供まで作って……そのソビエト女と夫婦ぐらし。その女とも逢った。その家も見た。二人のベッドに二つならんだ枕も見た。

妻はあきらめてナポリへ。その汽車を追って駆けつけた良人。しかし汽車は妻ひとりを乗せ遠くへ。

また何年かたった。良人は、もう一度あのナポリの妻に逢いたい見たいで、落ちつけない。思いきってナポリへ。そして、ついに妻に逢った。二人は力いっぱい抱き合った……けれど妻もまたすでに今は人の妻になり、可愛い男の子の母となっている。

二人は別れるより仕方がない。ほんとうに、もうそうするより仕方がないのである。これも……お話は単純である。けれども名人芸の何たるかをこのデ・シーカ作品は示す。

かつての夫婦が、何年かぶりで逢った。その晩は雨。それもひどい雨。停電した。暗い中で、かつての良人は妻と逢った。ローソクをつけようとする妻の手を止めた。せめてこの暗い中で。二人はほのぐらい中で互いを見つめた。しかし、再び燃える夫婦愛のその心を妻は消すかのごとく涙を流してローソクに火をつけた。二人の心がそのローソクの明りで燃える心の火を消した。やがて二人がはっきりと別れの決意のついた。憎い場面、すばらしい演出、そしてソフィアとマストロヤンニのこの名演。瞬間に停電の電気がパッと明るくなった。

えと文・向井修二

パリの遊び
ア・ラ・カルト

フランスはパリ、オペラ座の周辺で聞かれる日本男子とフランス女性との会話は「ワンショット・ハウマッチ」である。最初はゴルフの話でもしているのかと思っていたが、「セキスポ・エキデビション」と聞いたときには、これがパリの女（コールガール）のささやきであると知った……

立派なスポーツカーやGTがブルンブルンと走り、男の前ではゆっくりと走る。スポットライトで上下から顔を照らし、売込みを初める、まさに「カモーン、カモーン」である女性二人でのっているが、どちらかが少し顔が悪いのは日本と同じである。その中でも真赤なロメオにのった女性が一番美しい。パリに行かれる方はその真赤なロメオを探すべし！本当に美しいですぞ。知る人ぞしるその平均的金額は百フラン（つまりワン・ショット）日本円で七千円ほど。それにホテル代三〇フラン、日本円で二千五百円、つまりトータル一万円ポッキリである。

日本から一緒に行ったソアーコーデネター氏はパリにいるあいだ中、体験調査をやっていたほど良いものらしい。ただ日本の高名な農協の方々は、大変高額なチップを払うために、農協らしい日本人はまちがいなく、ボッタクリにあうらしいからご用心されたい、スタイルはできるだけ立派な方が良いとされている。

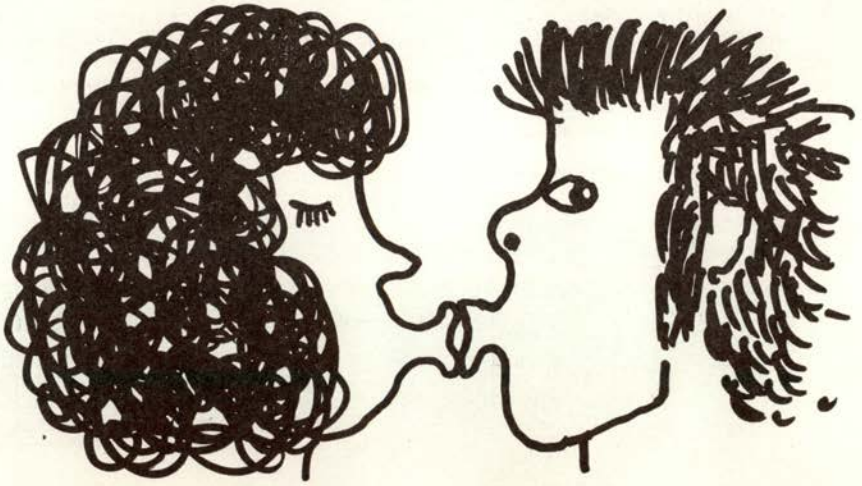
神戸でいえば新開地のようなところ、ブルバード通り、ストリップ・チーブのよびこみのおやじが、あまりに愛嬌があり、感じがいいというので（ただし大変安かったからだが）入ったところ、室内はまっくら。やにわにぐろーぶのような手が二つ三つひざをさわられて、これはえらいことになったと思ったとたん、一升ビンほどのシャンペンがボイーンとあけられた（パリではシャンペンをぬくと最低一万円である）すきをみて三人でその場から逃げ出した、後で聞くとよく逃げてこられたものだと感心をよんだが、やはり気を付けなければいけないことだ。普通は入口に用心棒がいて、そんなやつをつかまえてボッタクルらしいけれども、入った時間が早くて準備が出来ていなかったようである。

パリのホテルで一流をはぶいては、十二時すぎのフロントのナイトマネージャに話をすれば、美しいフランス女性をアッセンしてくれる。ただ「オールナイト・ハウマッチ」というと、フランス女性はびっくりぎょうてんする。つまり、一晩中、セックスばかりできる

のか？　と、日本男子をうっとりながめるのである。そんな自信のある男子はそういえばいいが、日本的な意味でのオールナイトは、あちらでは「ワンナイト」といわねばならない。連れの一人が金パツのグラマーちゃんと、米ドル50ドルで契約して、20ドル紙ヘイしかもち合わせず、3枚つまり、60ドル渡した。「テンダラー・バック」とささやいたが、英語がわからないふりをして知らん顔、こうなると、ささやいてばかりもいられず再度「テンダラー・バック」と呼ぶと、そのグラマーちゃん、金をいとも優雅にハンドバックに入れたという。バックちがいらしい。ただその友人、三日間ほどふわふわして大変ドルの効果があったらしい、その前後の話は平凡なのでカットする。

パリの女性は夜美しくなる。パリは夜が長いし、十二時からが本番で四時ぐらいまで遊ぶ。とりわけ、日本人がこまるのは、プライベートクラブであ。アベックでないと入れないクラブで、ゴーゴーをやり、壁廻りに椅子がある。そのアベックたちが、チューチューとやり、ダンスをしながらチューチューとやる。まさしくキッスクラブといったところ、うれしいやら、にくらしいやら、目のやりばにこまるのがプライベートクラブである。

フランス人の本格的なキッスを見たい人には、そんなプライベート・クラブに行くとよいと思われる。



DRINKING

Restaurant Bar

最後の1ドル

生田区北長狭通1—41
チェリービル3F　TEL39—2173

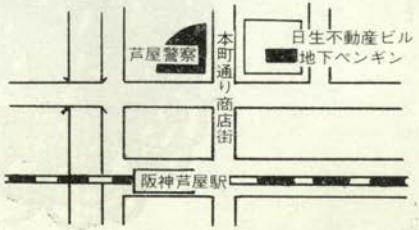
★車のヘッドライトが、多くの水玉模様を西へ流す生田新道。
そこから、ただ一つレンガで敷いた細い路地を北へ向った左に、レストラン・バー**"最後の1ドル"**がある。
7月24日新装オープンしたシックな英国調のインテリア。25坪のゆったりと落ち着いたスペースに、関西で初めての自動ピアノ<米国製、キンボールピアノ>の旋律がよりゴージャスな雰囲気をかもしだす秋の夜長を—
drinking, eating, singing, and dancing, come on old and young
きっと時のたつのも忘れるくらい満喫でき、ドル入れの最後の1ドルまでも失ってしまいそうな素敵なお店です。
スコッチ類600円、付出し200円を除いた他カクテル・オールド水割など1ドル（360円）。
PM6：00〜AM2：00　日曜休。

café & rest

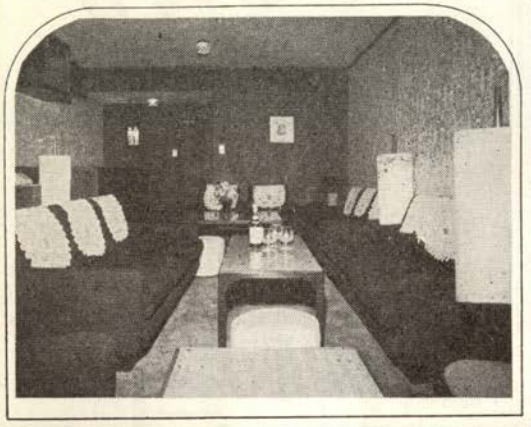
ペンギン

芦屋市公光町7—10B—101
日生不動産阪神芦屋ビル地下
TEL0797（31）2710

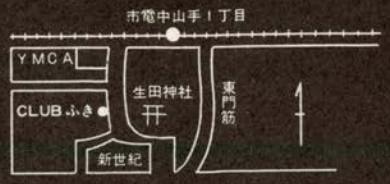
★「**ペンギン**」ガ　6ガツ10カ　ゴゴ6ジ　オープンシマシタ。ハンシンアシヤ　キタガワ　50メートル　ヤヤオクマッタトコロ　アナタ　ト　アナタノ　タメニデザインシタ　「**ペンギン**」。
エイギョージカンワ　ゴゴ6ジカラ　ゴゼン2ジマデ。
ダイイチ　ダイサン　スイヨウビ　ワ　ヤスマセテイタダキマス。
こんな案内状が舞いこんだ。甲南から芦屋、西宮にかけて遊ぶ若者たちと、三宮界隈で遊ぶ若者たちとは、どこか違うところがある。芦屋のハイムードの夜を憩う貴重なスペースが、この café & rest. **"ペンギン"**である。ミラーとコードペンダントが、静かなたたずまいの中のカフエコーナーの雰囲気をあらわしている。
芦屋で遊ぶ、芦屋で飲む、そのイメージを十分に楽しませてくれるのがこの**"ペンギン"**である。



KOBEの
気楽な雰囲気が
楽しめる
CLUB《露》
＊



CLUB ふき　露



生田区下山手通2丁目　TEL 39--1515

＊＊＊＊＊＊＊＊

チョットちがうんです

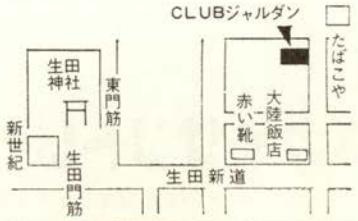
こんなクラブが神戸にもあるんです

あなたは花園のトビラを開けるだけ

CLUB
ジャルダン

神戸市生田区中山手1丁目111

TEL 078〈33〉8589



秋の集いに！

〈北欧ヴァイキング料理〉
1400円〈飲食税 140円別〉

飲みほうだい（サントリー純生ビール／クラウン・コーラ）＋食べほうだい

一品料理、日本酒も準備いたしております

なごやかなムード
すばらしい眺望！

スカイサントリー

三宮交通センタービル9F　TEL.㊴3705～6

元祖 焼たこ

おいしさが
口いっぱいに
ひろがる……
本場の味

ばたこなち

■三宮センター街柳筋店
TEL　32—3446・33—0572
■新開地店
TEL　56—1191
■平野店（平野市場内）
TEL　36—0821
■三宮センター街サンプラザビルB1
TEL　39—3793

神戸百店会
だより

★パリ祭にちなんで ジャン・パトウ・ショー

北野クラブにおけるジャン・パトウ・ショー

七月十四日、パリ祭にちなみ、大丸神戸店、**ブランドブラン**商事が北野クラブで、秋冬ものジャン・パトウ・プレタポルテ・コレクションショーを開いた。加茂みやじファッション・グループのモデルさん四人が次々と着て現われるモードは、サインを入れたワンピース・パンタロン・スーツ、パトウの香水JOY・CALINEのイメージでデザインされたコートとワンピースなど約三六点、ジャン・パトウならではの美しいシルエット。指輪やネックレス、スカーフなどもジャン・パトウのオリジナル。シャンソンのメロディの流れるパリの雰囲気いっぱいの内に閉会された。

★大和屋シャツで オリジナルシャツ展示会

国際会館1F浜側の**大和屋シャツ**では、9月25日（土）から10月15日（木）まで、秋冬ものオリジナルシャツの展示会を開く。

メンズ・ファッションも多様化の時代を迎え**大和屋シャツ**では、舶来ものも豊富に入荷、よりカラフルな、より斬新なデザインをそろえている。70年代のカジュアルは何気ない装い、無頓着な装い、習慣にとらわれない装い、他人を気にしない装いなど、いままでの慣習や風俗に従属しない精神的カジュアルがファッションのうえに反映されるとのこと。

★さよならの言えない街へ さんちかタウン大改装

さんちかタウン五周年記念事業として、今までの五年間の「統一の中の個性」から「個性の尊重」へ飛躍的にイメージチェンジをはかり、大改装をする。

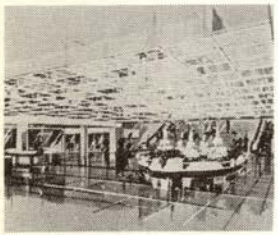
案内所前に鳥が啼ずる噴水を置いたり、南端には人工の森をつくったり、森のプロムナードの雰囲気。

8月末から改装工事を始めていたが、9月13日から25日までの13日間、全店が一斉に休業、各テナントの個性あるディスプレイが期待されている。

これに伴い、9月4日から13日まで、さんちか売りつくしセールが行なわれ、店によってはショウケースまで売りに出すところがあるそうだ。

9月26日には国際会館でさんちか大改装完成の祝賀会と、新しいテーマソング「さよならの言えない街」のビクターレコードの発表会がある。

同時に、さんちか広場ではファッションショウ、スターサイン会、民謡パレードなどが予定されている。



改装されるさんちかタウン

●ショップトピックス

★トア・ロード、舶来服飾雑貨の店**エスターニュートン**が9月初めに新装なりました。ヤングレディにもアピールするよう若々しいインテリア。トア・ロードへお出かけの際は、一度お立ち寄りください。

★国際会館一階の**ベニー毛皮店**、別室化粧品部も少し模様変えしました。

★幸せな佳き日のために、**オリエンタルホテル**から「結婚ゼミナール」ごあんない！

婚礼についてのいろいろを出来る限り知っていただこうと企画されたこのゼミナールは、来る9月6日（日）AM10時／PM2時半まで開かれます。会費は一名様につき二、五〇〇円。詳しくはオリエンタルホテル宴会課までどうぞ。TEL㊇8111

★大丸前の呉服店**みよしや**では、九月三、四日午前九時～六時、オリエンタル・ホテル2Fバラの間で、〝秋の染色逸品会〟を開きます。着物、帯、新しい秋の感覚を生かしたオリジナルものが展示されます。ぜひご覧ください。

★**UCC上島珈琲**では、八月八日わが国初のフルオートメーション珈琲工場を高槻市にオープンしました。なおこの日を期して、大阪飲料がUCCウエシマボトラーズと改称いたしました。

★トア・ロード、アクセサリーの**芸夢**では、十一月一日、名古屋駅前・桜通り地下街に支店を開きます。

TEL〇五二―五八六―一七七〇

ポケットジャーナル

★香西精氏が精魂傾けた「続世阿弥新考」発刊

香西精氏（神戸市兵庫区下沢通7の3兵庫米穀KK社長）の前著「世阿彌新考」は、昭和37年2月、世阿彌生誕600年に記念出版され、学界を揺るがす新見に満ちた名著であった。

昭和41年には藍綬褒賞を授与されるほど実業界に貢献される多忙な生活の余暇を利用しての学問的活動なのである。が、42年に緑内障と診断をうけ、その後、余病に病院生活を余儀なく隻眼となっても世阿彌に取り組まれた。

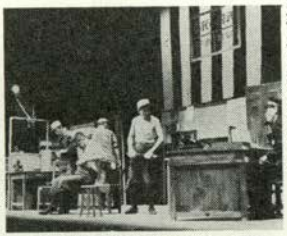
「続世阿彌考」は、世阿彌時代の能と今日の能を考えさらに日本の伝統芸術と今日の芸術への一考をうながされる930頁の力作で、今夏7月20日に発行されたものだが、香西氏の世阿彌や能への愛着の深さが、病をふりはらい、続編の誕生を見たといえよう。神戸人にとって誇るべき研究論文だ。（わんや書店2、300円）

★神戸ファッションカーニバル開催！

神戸のファッション業者の団体・洋秀会と神戸ブラウスグループがこの9月9～11日、神戸ファッションカーニバルを開く。9～11日はお得意様向けの展示会だが、10日には国際会館大ホールで、午後1～4時、5時半～8時半の2回、ショーを開く。音楽やコミックなどの楽しいショー、秋冬もののブラウス、ミディ、マキシのプレタポルテ、ニットウエアなど約44点のヴイヴィッドなファッションショー、栗原玲児の司会によるヒットパレード/佐川満男・黒木憲・弘田三枝子・千賀かほるほか/の三部構成。ファッションの街KOBEを強くアピールしていこうというもの。ショーをご覧になりたい方はラジオ関西、神戸新聞事業部（22 4121）（731 4321）に申し込めばいい。

★16劇団の合同公演による〝小さな駅のある物語〟

国鉄職員のお客さんに直接触れる人と構内で働いてる人たちの間のトラブルをはじめ、現代の国鉄における組織難行を現わしたドラマを通じリアリズム演劇の追及を考えさせる。



〝小さな駅のある物語〟の一場面

県下の16劇団が民芸の早川昭二氏を演出に迎え、夏の蚊の大攻撃になやまされながら稽古にあたった。なかでも、お召別車に日の丸の旗をふるかわりにふんどしをふる〝がんさあ〟役の須永克彦氏（道化座）のコミックな演技が注目されたなお9月13日　西脇市民会館、9月23日　姫路公会堂PM2時より兵庫県劇団協会・神戸労演共同企画。

★芸術の秋〝信楽の里〟で秋のひとときを

神戸市立南蛮美術館友の会が、9月の例会として、信楽の里へバス旅行をする今回は、焼物で有名な信楽

誕生日ありがとう運動

中学生で読める啓蒙図書『ちえおくれの話』

精神薄弱問題を、誰にでもわかりやすく親しめる啓蒙図書「ちえおくれの話」を、昨年九月に刊行しました。現在まで、三版と版を重ね全国各地へ約二万部も出ています。今までいろいろな新聞や雑誌の書評欄でもたびたびとりあげられて広く紹介され、中学生、高校生、大学生、OL主婦……と広い層に愛読されています。

著者は、神戸大学助教授伊藤隆二氏で、その内容は、①ちえおくれとは、②その原因と発見と相談③ちえおくれの福祉・教育機関④ちえおくれと社会の人たち、⑤ちえおくれを正しく理解するために、⑥ボランティアや特殊教育への道案内……などとなっています

A五版　全一八ページで、申込みは、再版資金カンパとして百円（送料共）をそえて事務局へおねがいします。みなさんも、ぜひ一度ご愛読をおすすめします。

誕生日ありがとう運動事務局
神戸市葺合区小野柄通二の五
市立青陽養護学校内
TEL㉒一五五九

ちえおくれの話

「誕生日ありがとう運動」とは精神薄弱児（ちえおくれの子たち）に、正しい理解と愛情をモットーにはじまった運動で、あなたの誕生日に百円献金していただくものです。住所・氏名・生年月日を書き添えて郵送して下さい。また古切手集めにご協力下さい。

事務局＝神戸市葺合区小野柄通2－5　神戸市立青陽養護学校内
誕生日ありがとう運動事務局
TEL㉒一五五九

の里と紫香楽宮跡をたずね名物料理に舌つづみを打ちながら焼物の話を聞き、粘土いじりや絵つけなどをする予定。

なお、つぼや茶碗を作りたい人は申し込みの時に連絡すれば良い。9月23日AM8時出発、PM6時帰着。国鉄神戸駅南側広場が出発場所。

会費・会員1、800円　一般1、900円

ただし昼食代を含む。お申し込みは、9月19日までに神戸市葺合区熊内町1の35　TEL㉒3043　神戸市立南蛮美術館友の会

★神戸にやってきた〝カナダの歩く王様〟

ステキなおじさま

7月のある日、神戸そごうの裏手に何とも珍奇な車が一台。メキシコ風衣裳箱に各国の旅を吊り下げて、「今、神戸に着いたばかりだ」というこの人は、カナダ人のエルザー・デューケット氏（60才で独身）、またの名を—The King of the Walk—（カナダの歩く王様）ともいう。

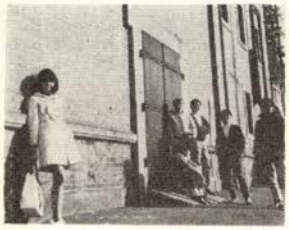
世界中を徒歩旅行して35年間、訪れた先々で買い求めた世界の雑貨品を売り歩いている。過去3回の万国博をみていて、日本へも万国博を見にやってきたという。徒歩旅行をする動機となったものは？　と聞けば旅行が大好きなのです！　と簡潔明瞭な答え。

「今度はドイツのミュンヘンで開かれるオリンピックへ行く予定」と元気一杯。

★エミーズ　レコードを発売　WE LOVE EMYS

神戸の学生アマチュアバンドの中で異色の存在として活躍を続けてきたエミーズが解散を記念して、LPレコードを発売。

フォー・フレッシュメンのオープンコーラスを目指し約二年間を費やしてそのテクニックをマスターしただけあって、そのハーモニーの美しさはバツグン。紅一点の女性ボーカリスト吉間万里子さんのソロも男性3人をバックにすばらしい



エミーズのメンバー

オリジナル曲「ないしょ話」の他、ポピュラージャズからスタンダードナンバー14曲、定価1、400円

発売場所・ローストシティ・星電社・サンチカ店・本誌編集室その他

★さんプラザ三愛を飾る　線と色のシンフォニー

さんプラザ3階の三愛のシースルーギャラリーでは今までチェコ版画展などをしていたが、この8月1日から、本誌の漫画でお馴染みの岡田淳さんの描く「線と色のシンフォニー」が、15日まで行なわれた。

シースルーギャラリーの岡田淳さん

小品ばかり、60点のイラスト展。シンフォニーのイメージを縦横に膨らませ、それに作者の持味である花と星をダブらせている。

初日から早々と、老若男女を問わない買手がつくなど、人気のほどを示していた。

なお、このあとアクセサリーの展示などが計画されているが、日頃の腕前を披露したい人は、さんプラザ三愛の事務所まで連絡のこと。（39—6861）

★甲南の新プレイゾーン　ジェシカ&スタンハイム

マキシの彼女にぴったり

☆ドライバーメモ　水たまりでエンストしたら電気自動車にしよう

川口陽之（自動車評論家）

マイカーが、台風の中をスイスイ走っている。運転中止してしまった電車のプラットホームで待っている人は、たいそうらめしい。ところが、神戸附近では、大雨で浸水した道路が多いので、この水たまりを通り越すのに、ドライバーは、いつエンストするか…とヒヤヒヤものなのである。

水たまりは一秒でも早く脱出したいので、スピードを上げやすいが、エンジンの回転を上げると、ファンで水をよけいにかきあげて点火系統をぬらしてしまって、エンストする。水たまりは、落ちついて、ゆっくりと進むこと（セコンドギャーで）である。

不幸にして水たまりの真中でエンストしたら、あわてて、セルモーターを回わして再びエンジンを始動しようとせずに、チェンジをローギャーに入れて、クラッチを踏まずに、セルモーターを回わすと、ガソリン自動車は、セルモーターの力による電気自動車に早がわりして、二、三十メーターはじゅぶん進む。靴をぬいで、ズボンを巻き上げて押す必要はない。同乗者も乗ったままでも結構動く。一応練習しておいてほしい。

カントリーウェスタンのひびくジェシカ

の阪急岡本、本山、甲南の新プレイゾーン。テラス喫茶のボヌール、喫茶コンコード、それに、スナック・ファファンetc。甲南大OBの若きマスター松村良臣さんが、うちのステーキは神戸一ですヨ！とはりきる〈ジェシカ&スタンハイム〉。

社長がパイプをふかした粋なシルエットがマークというピッザとステーキの店スタンハイムは、ヘレ肉200gの炭焼ステーキにサラダが付いて1200円PM12時～9時までで、食事を終えるとトコトコと二階へ上がると、ピッザとスイス製のレモネードを使ったレモンスカッシュがおいしいジェシカで深夜2時まで。

国鉄本山駅西の東西の幹線道路（十二間道路）沿いで車は20台も収容できる。水・土曜日には、カントリーウェスタンの生バンドも楽しめる。

★悩めるヒッピー

ドイツ帰りのヒッピー福永君はケルンの町で覚えた、シルバーラーツを使った装飾芸術品を創っている。ところがドイツから持って帰った材料が品切れ。個展をしたくても作品がつくれず悩んでいる。銀のはりがねという意味のシルバーラーツは、ラジオ部品関係で売っていたもの、どなたかご存知ありませんか？

彼はヒッチハイクで世界をまわるつもりがドイツでLSDを使っていて80日間刑務所暮し。強制送還されてきたという変わり種なのだが……。

連絡先は編集室または薔薇屋 TEL35・4311まで。

数々の作品を並べての福永君

花時計

★美術学校を考える

先日、ある対談で神戸に美術学校がないのが不思議だ、ぜひつくらなくてはならない、という話が出た。

必ずしも大学でなくてもいいから美術学校がたいせつだという考え方には賛成だ。神戸は短期大学が比較的たくさんあってレベルも非常にいい、そして各短期大学にはほとんど美術教程が置かれているらしい。

それは、神戸に非常に大きな役割を果していると思う。しかし、短期大学はほとんど女子専門になっているので、残念ながら文化のインターランドとして見た場合に弱いとしかいえない。

神戸という都市の特色を考えれば、デザイン、美術のメッカであっていいはづだ。神戸には幸いすぐれた美術家がたくさんいて全国的にも最高のレベルを誇っている。

いまは神戸に美術学校を創るのはいい条件だといえる。

大学が創ればそれに越したことはないが、急に大学を創ることは難かしい。専門の美術学校なればそれでいい。

神戸にとって文化のバックグランドを創ることそれが明日の神戸の繁栄につながるのだ。（K）

★ムービーコーナー

「チップス先生さようなら」

★古き良き時とよくいいますが、これは古き良き時代のイギリスの一人の学校の先生の物語です。ブルックフィールドというパブリックスクール（上流の子弟がはいる寄宿学校）の生き字引きのようなチップス先生という秩序の化身のような人物を通じての美しい愛の物語です。

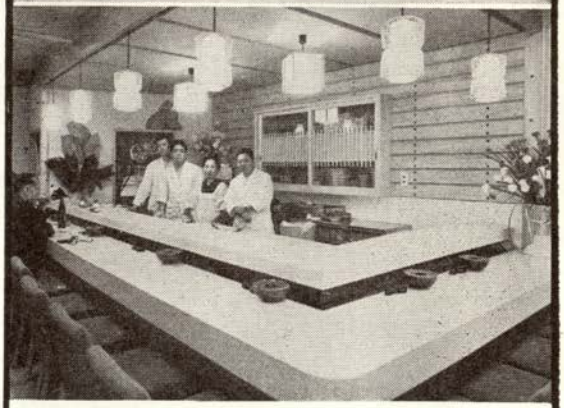
ジェームス・ヒルトンの淡々とした原作が発表されて、いち早く映画や芝居になりましたが、今度のはその改変、ミュージカル版。

シナリオは劇作家として著名なテレンス・ラティガンで、チップス先生の人間像を除いては、ほとんど原作とは違って書き変えられています。監督のハーバート・ロスは、「ファニーガール」「ドリトル先生」ほかたくさんの作品を持つブロードウェイの振り付け師で演出までやったのが始めて。形式の上でもハーバード・ロスは「新しいミュージカル」と称しているそうで、MGMは「ピューティフル・ラブ・ストーリー・ウィズ・ミュージック」―と表現しています。

主演はピーター・オトウールにペチュラ・クラーク。

新聞会館大劇場にて上演中。

ゆったりと落ち着いたスペースで
新しい“味”をご賞味ください。



鮨の又平

神戸三宮生田ノ社ノ西
電話・三の宮　(33)０９３５

呉服係磯

みよしや

神戸店　大丸前（ミヨシヤ）
電話神戸(32)二四四八番(代)
(33)二三八八番(代)
大阪店　阪神百貨店三階
電話　大阪(345)九五八四番
姫路店やまとやしき百貨店四階
電話　姫路㉓一二二一番